

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター きらり直方			
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(児発：34名) (放デイ：13名)	(回答者数)	(児発：34名) (放デイ：13名)
○従業者評価実施期間	令和8年1月20日		～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(児発：9名) (放デイ：6名)	(回答者数)	(児発：9名) (放デイ：6名)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バリアフリーの設備	バリアフリー設備を整え、車いすの子どもも安心して利用できる環境を整えています。段差のない移動動線や手すりの設置などに配慮し、職員全員が安全と快適さに意識を向けたサポートを行っています。	今後は、車いす利用の子どもがより快適に過ごせるよう設備の改善や補助機器の導入、職員の支援スキル向上に取り組みしていきます。
2	感覚統合室を備えている	感覚統合室では、随時活動内容や設定を変え、子ども一人ひとりの特性に合わせた感覚刺激を安全に体験できるよう工夫しています。	子ども一人ひとりの発達やニーズに合わせた教材・遊具の導入でより安全で効果的な感覚体験を提供できる環境づくりに取り組めます。
3	専門職(作業療法士)が配置されている	個別療育と集団療育を組み合わせ、子ども一人ひとりの特性に応じた支援を行うとともに、集団での活動を通して社会性や協調性を育む工夫をしています。	個別・集団プログラムの内容や指導方法を工夫・改善し、より効果的で充実した療育を提供していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法士は配置しているが、言語聴覚士は配置出来ない	言語聴覚士が不在のため、言語・コミュニケーション支援が十分に行えないことが課題で、専門職確保の難しさが要因です。	言語聴覚士の配置を確保しつつ、職員の言語支援スキル向上や個別支援計画の充実に取り組めます。
2	地域の保育園や幼稚園との連携が必要である	地域の保育園や幼稚園との連携が出来ていないことが課題であり、その要因として情報共有の不十分さや職員間の調整の難しさがあります。	情報共有の整備や定期的な打ち合わせの実施を通じて、保育園・幼稚園との連携を強化する取り組みが必要です。
3			